

## 血液検査でわかること



みなさんは病院にかかったときに一度は血液検査をしたことがあると思いますが、血液検査結果表を見ても専門用語で書かれていてどのような検査かわからないことが多いと思います。

そこで今回は、当院で血液検査をした場合の代表的な検査項目の解説をしたいと思います。ぜひ参考にいただき、適度な運動と食生活に気を付け健康を維持しましょう！

検査項目	解説
血糖	血液中にあるブドウ糖のことで、体のエネルギーとして重要です。この血糖の調節ができなくなるのが糖尿病です。
HbA1c	糖尿病の指標として過去1～2か月の血糖値の平均を現わします。
総蛋白(TP)	血液中の蛋白のことで、栄養失調・下痢・肝臓病では値が減少します。
AST(GOT)	この3つの酵素は肝臓・心臓などが障害を受けて、これらの細胞が壊れると血液中にその量が増加します。
ALT(GPT)	
LDH	
総ビリルビン (T-BIL)	肝臓・胆のう・胆管に障害が起こり、値が高くなると皮膚が黄色（黄疸）になります。
γ-GTP	アルコール性の肝障害で高くなるため、酒飲みの肝機能検査と言われています。
CK(CPK)	筋肉、脳及び心臓の筋肉に多く含まれており、心筋梗塞や重症の脳の障害において高値を示します。また激しい運動でも高い値になることがあります。
血清アミラーゼ	膵臓の病気を調べるときの代表的な検査です。
尿酸(UA)	痛風という激痛を伴う関節炎発症の目安になります。
尿素窒素(UN) クレアチニン(CRE)	腎臓が正常に働いているかを調べる検査です。腎臓の機能が低下すると増加します。
総コレステロール (T-CHO)	高血圧や動脈硬化の兆候や進行具合をみる検査です。
中性脂肪(TG)	動脈硬化の危険因子のひとつで、食事の影響を大きく受けます。
HDL-コレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、値が低いと動脈硬化の危険因子となります。
LDL-コレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれ、値が高い場合は脳梗塞、心筋梗塞などのリスクが高くなります。
CRP	炎症があるかを調べる検査です。数値が大きいほど炎症が強く、病気の経過を知るのに役立ちます。